

2022年度 文学部聴講生

講義要項

(心理学専攻抜粋)

中央大学 文学部

2022.4 - 2023.3

目次

科目No	専攻	漢字科目名	教員氏名	学期名称	曜日名称	時限名称	ページ番号
E5201	心理学	心理学概論／心理学概論（1）	有賀 敦紀	前期	木	1時限	3
E5202	心理学	心理学概論／心理学概論（1）	高瀬 堅吉	前期	木	1時限	3
E5203	心理学	臨床心理学概論／心理学概論（2）	山科 満	後期	木	1時限	5
E5204	心理学	臨床心理学概論／心理学概論（2）	緑川 晶	後期	木	1時限	5
E5205	心理学	教育心理学（教育・学校心理学Ⅰ）／教育心理学	高瀬 堅吉	前期	水	1時限	8
E5206	心理学	発達心理学	高瀬 堅吉	後期	水	1時限	10
E5207	心理学	生涯発達心理学	高橋 翠	前期	水	1時限	12
E5208	心理学	認知心理学（知覚・認知心理学Ⅱ）／認知心理学	有賀 敦紀	前期	水	2時限	15
E5209	心理学	神経心理学（神経・生理心理学Ⅱ）／神経心理学	緑川 晶	後期	金	4時限	17
E5210	心理学	大脳生理学（神経・生理心理学Ⅰ）／大脳生理学	緑川 晶	前期	金	4時限	19
E5211	心理学	家族心理学（社会・集団・家族心理学Ⅱ）	大野 祥子	前期	木	5時限	21
E5212	心理学	学校臨床心理学（教育・学校心理学Ⅱ）／学校臨床心理学	富田 拓郎	前期	月	2時限	24

科目名: 心理学概論／心理学概論(1)

担当教員: 有賀 敦紀、高瀬 堅吉

履修年度: 2022 学期: 前期

開講曜日時限: 木1

配当年次: 1年次配当

科目ナンバー:

登録者: admin

登録日時: 2021-10-07 05:18:12 更新者: XEA203

更新日時: 2022-01-31 17:24:55

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

現代の心理学の礎となっている実証研究および理論の変遷を概観する。前半は有賀、後半は高瀬が担当する。

科目目的

心理学における基本的な考え方, 基礎的知見および研究手法を理解し, 人間の心を科学的に理解する能力・態度を習得することを目的とする。

到達目標

- (1)心理学の成り立ちについて概説できる。
- (2)人の心の基本的な仕組み及び働きについて概説できる。

授業計画と内容

<有賀担当分>

- 第1回: オリエンテーション
- 第2回: 哲学から心理学
- 第3回: 精神物理学
- 第4回: ゲシュタルト心理学
- 第5回: 行動主義心理学
- 第6回: 認知革命
- 第7回: 総括

<高瀬担当分>

- 第8回: 心の系統発生的基盤
- 第9回: 心の個体発生的基盤
- 第10回: 心の社会的基盤
- 第11回: 心の制度的基盤と文化的基盤
- 第12回: 心の適応的基盤
- 第13回: 心の個人的基盤
- 第14回: 総括

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- | | | |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 50% | 前半(有賀担当分)で講義した心理学の考え方, 方法論および基礎的知識についての理解度を評価する。 |
| 期末試験 | 50% | 後半(高瀬担当分)で講義した心理学の考え方, 方法論および基礎的知識についての理解度を評価する。 |
| レポート | 0% | |
| 平常点 | 0% | |

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
- ✓ 実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

適宜レジュメを配布する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。

科目名：臨床心理学概論／心理学概論(2)

担当教員：緑川 晶、山科 満

履修年度：2022 学期：後期

開講曜日時限：木1

配当年次：1年次配当

科目ナンバー：

登録者：admin

登録日時：2021-10-07 05:21:10 更新者：AA0620

更新日時：2022-02-12 10:17:44

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

講義形式で神経心理学や臨床心理学という学問分野を概観し、そこで扱われる様々なテーマに触れることを通じて、これらの分野についての基礎的な知識を習得する。テキストを使用するが、理解を深めるために担当教員の臨床心理士や公認心理師としての実務経験を踏まえながら、心理臨床の実際事例も紹介する。初回から第7回までは緑川が、第8回以降は山科が担当する。

科目目的

神経心理学および臨床心理学における基本的な知識を習得し、かつそれらの学問領域の「考え方」を理解する。

到達目標

神経心理学、臨床心理学の基礎的な知識を習得した上で、それらの学問領域の「考え方」を理解することが目標である。その上で、心理学専攻の学生にとっては、2年次以降の学びの基礎となる重要な事柄が詰め込まれた講義内容となるため、授業で取り上げられる事柄に関する知識は漏れなく習得することも目標となる。

授業計画と内容

第1回	はじめに(なにが正しいのか)	オンデマンド配信(時間割上の時間に収録を行います)
第2回	神経の構造	同
第3回	脳の構造と障害	同
第4回	神経系の研究方法	同
第5回	神経系の発達の特徴	同
第6回	発達障害	同
第7回	認知機能の多様性	同
第8回	心理学・臨床心理学・精神医学の関係	オンデマンド配信の動画を視聴してください。
第9回	心理療法の出发点—フロイトについて	同
第10回	思春期の子どもの心理—心理・性的発達	同
第11回	抑うつ—心理学—科学的心理学モデル	同
第12回	性格について—気質論と科学的性格論	同
第13回	不眠、トラウマ、「普通」とは何か	同
第14回	まとめ	課題配信型授業を行います。

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)

中間試験	0%
期末試験	60% 記述式試験で、神経心理学および科学的臨床心理学の「考え方」の理解度を評価します。
レポート	0%
平常点	40% 緑川担当分の小テスト、山科担当分の毎回の小テストで、知識の習得度合いを評価します。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

緑川担当分(第1回～第7回) : manaba上での複数回の小テストと緑川担当分の最終授業日(第7回目)にmanabaを用いた確認テストを予定しています。

山科担当分(第8回～第14回) : 毎回小テストを行い、各回満点で5点とします。最終回は記述形式の試験を行います(配点20点)。

緑川担当分、山科担当分それぞれを50点満点で採点し、100点満点で60点以上を合格とします。

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

- ✓ その他
- 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

第8回以降(山科担当分)では、授業内容への感想・質問を10個以上取り上げ、コメント・解説を加えることでさらなる学びの機会とします。単なる興味本位の質問は取り上げませんが、全体の学びの深化に繋がる感想・質問であれば、個人的な事柄であっても歓迎します。

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

第1回～8回(緑川担当分)の授業では、Responを用いて、適宜、学生からのフィードバックを共有します。第8回以降(山科担当分)では、manabaの小テストに自由記述欄を設け、コメント・質問を積極的に受け付け、次回の授業で取り上げていきます。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

緑川は、臨床心理士として大学病院神経内科(15年)、公立のリハビリテーションセンター(12年)、公立病院の脳神経外科(12年)などでの心理業務に関する実務経験があります。また公認心理師の資格を2019年から有しています。

山科は、精神科医として公立単科精神病院に6年、大学病院精神科に通算8年、市中クリニックに通算20年以上、保健所の精神保健相談に通算8年、社会福祉法人の嘱託医として通算14年、企業内健康管理センターの嘱託医として20年、東日本大震災被災地でのボランティア活動に10年の実務経験があります。臨床心理士資格は2006年から有しており、市中クリニック等で精神分析的な精神療法を実践し、大学の学生相談室でも教員相談員として8年間の実務経験があります。

実務経験に関連する授業内容

緑川は、上記の経験に基づいて、臨床現場で得られた事例などを紹介し、解説を加えます。

山科は、上記の経験に基づき、臨床現場で出会う個別事象と科学的心理学の関係について、精神科医・臨床心理士双方の視点から解説を加えます。

テキスト・参考文献等

<テキスト>兵藤宗吉・緑川晶編著「心の科学」[第2版]ナカニシヤ出版

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。

科目名: 教育心理学(教育・学校心理学 I) / 教育心理学

担当教員: 高瀬 堅吉

履修年度: 2022 学期: 前期

開講曜日時限: 水1

配当年次: 2年次配当

科目ナンバー:

登録者: admin

登録日時: 2021-10-07 05:21:14 更新者: XEA204

更新日時: 2022-01-09 11:14:29

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について学ぶ。

科目目的

教育の制度や学校の環境、学校における問題を理解すると同時に、発達と教育の関係や教授・学習法について理解する。また、教育分野における心理学的援助等についても理解を深める。

到達目標

教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援に関する知識を獲得する。

授業計画と内容

- 第1回: オリエンテーション
- 第2回: 教育の制度・法律・倫理
- 第3回: 教育・学校の環境
- 第4回: 学校における問題の理解
- 第5回: 教育現場において生じる問題及びその背景(第2～4回)の振り返り
- 第6回: 発達と教育
- 第7回: 教授・学習
- 第8回: 教育分野における心理学的援助
- 第9回: 教育分野における心理学的アセスメント
- 第10回: 児童生徒に対する心理学的援助
- 第11回: 援助者・関係者への心理学的援助
- 第12回: 教育現場における心理社会的課題及び必要な支援(第6～11回)の振り返り
- 第13回: 教育心理学の最前線
- 第14回: 総括・期末試験

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 教育現場において生じる問題及びその背景、教育現場における心理社会的課題及び必要な支援についての理解度を評価する。
レポート	0%
平常点	50% responへの応答。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

適宜レジュメを配布する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。

科目名: 発達心理学

担当教員: 高瀬 堅吉

履修年度: 2022 学期: 後期

開講曜日時限: 水1

配当年次: 2年次配当

科目ナンバー:

登録者: admin

登録日時: 2021-10-07 05:21:14 更新者: XEA204

更新日時: 2022-01-09 11:43:27

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

心の発達について、以下の5項目を中心に学ぶ。

- ①認知機能の発達及び感情・社会性の発達
- ②自己と他者の関係の在り方と心理的発達
- ③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達
- ④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方
- ⑤高齢者の心理社会的課題及び必要な支援

科目目的

認知、感情、社会性の発達を理解するとともに、自己・他者の認識の発達及び自他関係の変化について理解する。また、心身の生涯発達と定型・非定型発達についても理解を深める。

到達目標

心の発達について、以下の5項目に関する知識を獲得する。

- ①認知機能の発達及び感情・社会性の発達
- ②自己と他者の関係の在り方と心理的発達
- ③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達
- ④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方
- ⑤高齢者の心理社会的課題及び必要な支援

授業計画と内容

- 第1回: オリエンテーション
- 第2回: 発達の生物学的基礎
- 第3回: 外界認知・思考と言語の発達
- 第4回: 感情・対人関係の発達
- 第5回: 自己と他者の認知・自己の発達
- 第6回: 認知機能の発達及び感情・社会性の発達 / 自己と他者の関係の在り方と心理的発達 (第2～5回) の振り返り
- 第7回: 出生前期・新生児期・乳児期
- 第8回: 幼児期・児童期
- 第9回: 青年期
- 第10回: 成人期・老年期
- 第11回: 定型発達と非定型発達
- 第12回: 誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達 / 発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方 (第7～12回) の振り返り
- 第13回: 高齢者の心理発達の課題と必要な支援
- 第14回: 総括・期末試験

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	50%	心の発達について、以下の5項目に関する理解度を評価する。 ①認知機能の発達及び感情・社会性の発達 ②自己と他者の関係の在り方と心理的発達 ③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達 ④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方 ⑤高齢者の心理社会的課題及び必要な支援
レポート	0%	
平常点	50%	responへの応答。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他

- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

適宜レジュメを配布する。

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。

科目名： 生涯発達心理学**担当教員： 高橋 翠**

履修年度：2022 学期：前期

開講曜日時限：水1

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：

登録者：admin

登録日時：2021-10-09 05:27:17 更新者：XEC216

更新日時：2022-01-10 23:49:08

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

人の発達（＝生涯を通じた様々な変化）は、①ヒトという生物種としての／個体ごとに異なる遺伝子・生物学的な要素、②個人を取り囲む様々な人々（家族や友人、同僚など）、そして③幾層にも重なり合った文脈・状況、文化・時代といった要素間の複雑で動的な相互作用を通じて立ち現れるものです。この講義では、人間の生涯の各局面（胎児期、乳幼児期、児童期、思春期・青年期、成人期、老年期）で、心身や周囲の人々との関係性に一般にどのような変化が生じるのか、またそこでの個人差や個人差をもたらす要因について、主要な発達心理学理論や最新の科学的知見が示してきた主要な見解をテキストに沿って学習していきます。

科目目的

本科目では、まず、受精から死までの各発達段階において、心身ならびに周囲の人々との関係性にどのような変化（発達）が生じるのか、またそれらをもたらす様々な要因と個体との相互作用はどのようなものなのかを網羅的に学習する。具体的には、胎児期から老年期までの各段階における主たる発達の現象（心身、ならびに周囲との関係性のあり方における変化）とそこでの個人差に関する主要な発達理論や科学的知見に関する基本的な知識・理解を得ることを目的とする。そのうえで、自らの経験と照らし合わせながら既存の理論や知見を評価・吟味し、現在の研究課題を解決するための新たな研究について自分なりの考えをもつことができるようにする力を養うことを目的とする。

到達目標

主要な発達心理学理論や最新の科学的知見の見解を理解したうえで、それらの妥当性や個別事例への適用可能性について（主たる理論や先行研究は欧米諸国のものである所以他们が日本を含む東アジアの人々に当てはまるかどうかという点も含めて）、自分自身や周囲の人々の経験と照らし合わせて批判的に検討し、疑問を解消するためにはどのような科学研究が可能か洞察を加えることのできる力を身に着けることがこの講義の到達点（目標）です。

授業計画と内容

- 第1回 生涯発達の基礎（1）1章 人間開発を理解する：アプローチと理論
- 第2回 生涯発達の基礎（2）2章 遺伝と胎児期の発達
- 第3回 乳幼児期（1）3章 乳児期および幼児期の身体的および認知的発達
- 第4回 乳幼児期（2）4章 乳児期および幼児期の社会情緒的発達（情緒と対人関係の発達）
- 第5回 子ども期（前期）の発達（1）5章 子ども期（前期）の身体的および認知的発達
- 第6回 子ども期（前期）の発達（2）6章 子ども期（前期）の社会情緒的発達（情緒と対人関係の発達）
- 第7回 子ども期（中期）の発達（1）7章 子ども期（中期）の身体的および認知的発達
- 第8回 子ども期（中期）の発達（2）8章 子ども期（中期）の社会情緒的発達（情緒と対人関係の発達）
- 第9回 思春期・青年期の発達（1）9章 思春期・青年期の身体的および認知的発達
- 第10回 思春期・青年期の発達（2）10章 思春期・青年期の社会情緒的発達（情緒と対人関係の発達）
- 第11回 成人形成期・成人期前期の発達（1）11章 成人形成期・成人期前期の身体的および認知的発達
- 第12回 成人形成期・成人期前期の発達（2）12章 成人形成期・成人期前期の社会情緒的発達（情緒と対人関係の発達）
- 第13回 中年期の発達：13・14章 中年期の発達
- 第14回 高齢期と死：15・16章 高齢期と死

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- 1) 授業前に必ずmanabaに掲載される講義用動画を視聴しておくこと。講義は動画の内容を学習したことを前提として行われる。
- 2) 授業終了後はmanaba上で復習課題(講義内容の簡単な理解テスト)に回答すること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	30% 期末レポート
平常点	70% 各講義につき、講義への出席・ディスカッションへの参加(3点)、授業後課題への回答(2点)計5点×14回
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)

- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

クリッカー
タブレット端末
その他

- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

テキストは指定しないが、講義では以下のテキストを講読する。

The Essentials Of Lifespan Development: Lives in Context
Tara L. Kuther, Sage Publication, 2022.
<https://us.sagepub.com/en-us/nam/the-essentials-of-lifespan-development/book270521>
<https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-02-9781071851838>

オフィスアワー

その他特記事項

授業でresponを使用する可能性があるので、スマホ等にアプリをダウンロードしておくこと

参考URL

備考

この科目は対面形式です。

科目名： 認知心理学(知覚・認知心理学Ⅱ)／認知心理学**担当教員： 有賀 敦紀**

履修年度：2022 学期：前期

開講曜日時限：水2

配当年次：3・4年次配当

科目ナンバー：

登録者：admin

登録日時：2021-10-07 05:21:15 更新者：XEA203

更新日時：2021-12-14 12:26:36

履修条件・関連科目等

後期に開講される「学習心理学」とセットで履修すると理解が深まる

2020年度以前入学生についてはゴシック科目です。2021年度以降入学生については非ゴシック科目（心理学専攻以外履修不可）です。

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

人間の顕在的・潜在的認知行動過程（中でも人の感覚，知覚，認知，思考等の機序およびその障害）について講義する。具体的には，注意，物体認識といった「モノを見る」という情報処理がどのように達成されているのかについて解説し，それが実社会とどのように関わっているのかについて考察する。

科目目的

認知心理学の専門的知識を実証研究・理論に基づき習得し，認知行動の側面から人間・社会を理解することを目的とする。

到達目標

- ・心について，科学的に考えることができる
- ・人間の情報処理過程，およびそれが実社会とどのように関わっているのかについて説明することができる

授業計画と内容

- (1) オリエンテーション
- (2) パターン認識
- (3) 視覚的注意
- (4) 注意の構え
- (5) 注意の初期選択・後期選択
- (6) 注意と意識・無意識
- (7) 持続的注意
- (8) 知覚・認知の文化差
- (9) 広告の魅力
- (10) 商品の魅力
- (11) 商品選択肢の効果
- (12) 消費者の意思決定
- (13) 認知心理学の応用
- (14) まとめ

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数／週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	100%	認知心理学の考え方，方法論および専門的知識を理解しているかどうかについて，毎回の小課題で評価
平常点	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
タブレット端末
その他
- ✓ 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

レジュメを配布する

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目は対面形式です。

科目名: 神経心理学(神経・生理心理学Ⅱ)／神経心理学

担当教員: 緑川 晶

履修年度: 2022 学期: 後期

開講曜日時限: 金4

配当年次: 3・4年次担当

科目ナンバー:

登録者: admin

登録日時: 2021-10-07 05:21:15 更新者: AA0620

更新日時: 2022-01-09 22:06:16

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

脳と心の関係について概説します。授業ではスライドやビデオ映像による資料提示やグループディスカッションなどを交えながら、脳損傷患者が示す各種症状を通じて、私たちの認知や行動の成立の基盤について考えます。

科目目的

脳の障害によって生じる認知機能や行動の障害を通じて、人間の認知・行動の成立基盤について理解することを目的とします。

到達目標

- ・脳の障害によって生じる症状(高次脳機能障害)について説明できるようにする。
- ・授業で学習した内容と各種心理学の分野で学んだ内容と関連させることができるようにする。
- ・関連する諸概念や諸制度を説明できるようにする。

授業計画と内容

- ① ガイダンス
- ② 神経心理学の方法論
- ③ 言語の障害(失語症)Ⅰ 運動性失語(ディスカッション)
- ④ 言語の障害(失語症)Ⅱ 感覚性失語
- ⑤ 行為の障害(失行症)(ディスカッション)
- ⑥ 視覚性認知の障害(失認症)
- ⑦ 視空間認知の障害/半側空間無視
- ⑧ 記憶の障害(健忘症)Ⅰ 症候(ディスカッション)
- ⑨ 記憶の障害(健忘症)Ⅱ 随伴症状
- ⑩ 遂行機能の障害の理解
- ⑪ 認知症の理解Ⅰ 症候
- ⑫ 認知症の理解Ⅱ その対応
- ⑬ 神経心理学と高次脳機能障害
- ⑭ 当事者から見た高次脳機能障害

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	50%	2-3回に一度の頻度で、授業開始時に複数回の小テストを実施します。
期末試験	50%	小テストで実施した内容を含む形で、半期全体を通じた範囲の期末試験を実施します。
レポート	0%	
平常点	0%	
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

臨床心理士として大学病院神経内科 (15年)、公立のリハビリテーションセンター (12年)、公立病院の脳神経外科 (12年) などでの心理業務に関する実務経験があります。また公認心理師の資格を2019年から有しています。

実務経験に関連する授業内容

上記の経験に基づいて、臨床現場で得られた事例などを紹介し、解説を加えます。

テキスト・参考文献等

テキスト：
緑川 晶，山口加代子，三村 将 編著『臨床神経心理学』医歯薬出版，2018年 ISBN：9784263265611

オフィスアワー

その他特記事項

不定期に確認テストを実施しますので、毎授業ごとの復習を重点的に行ってください。

参考URL

<https://midorikawa-lab.r.chuo-u.ac.jp>

備考

この科目は対面形式です。

科目名: 大脳生理学(神経・生理心理学Ⅰ)／大脳生理学

担当教員: 緑川 晶

履修年度: 2022 学期: 前期

開講曜日時限: 金4

配当年次: 3・4年次配当

科目ナンバー:

登録者: admin

登録日時: 2021-10-07 05:21:15 更新者: AA0620

更新日時: 2022-01-09 22:05:22

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)

授業の概要

認知・感覚・情動だけではなく、意識も含めて、人間の心理現象は脳(神経細胞)に還元することができます。授業では、神経機能の基本的な構成を理解するとともに、さまざまな認知機能の神経基盤を学び、発達障害や精神障害等を生物学的な視点から理解することを目指します。

科目目的

人間の認知や行動の成立基盤である脳の働きについて理解することを目的とします。

到達目標

- ・視覚、聴覚、運動などの諸機能が成立する生物学的な基盤について説明できるようになる。
- ・言語、認知、記憶、情動等の高次機能を成立させる生物学的な基盤について説明できるようになる。
- ・学習した諸概念と他の心理学諸領域との関連を説明できるようになる。

授業計画と内容

- ① ガイダンス
- ② 神経科学の方法論
- ③ 脳のマクロな構造
- ④ 脳のミクロな構造
- ⑤ 神経系の発達
- ⑥ 記憶機能
- ⑦ 視覚機能
- ⑧ 聴覚機能
- ⑨ 体性感覚と運動
- ⑩ 思考と意識
- ⑪ 脳の側性化と性差
- ⑫ 情動
- ⑬ 社会的認知
- ⑭ 精神疾患と発達障害

授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	50%	2-3回に1回の頻度で、小テストを実施します。
期末試験	50%	小テストの範囲を含む半期に実施した授業から出題します。
レポート	0%	
平常点	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL (課題解決型学習)
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
ディスカッション、ディベート
グループワーク
プレゼンテーション
実習、フィールドワーク
その他
実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

臨床心理士として大学病院神経内科 (15年)、公立のリハビリテーションセンター (12年)、公立病院の脳神経外科 (12年) などで心理業務に関する実務経験があります。また公認心理師の資格を2019年から有しています。

実務経験に関連する授業内容

上記の経験に基づいて、臨床現場で得られた事例などを紹介し、解説を加えます。

テキスト・参考文献等

教科書は用いずに、必要な資料は授業中に配布します。

参考文献：

・フロイド・E・ブルーム他 著、新・脳の探検 (上・下)、講談社ブルーバックス (B1431, B1432)、講談社、ISBN : 978-4062574310/9784062574327

・岡田 隆、宮森 孝史、廣中 直行 著：生理心理学—脳のはたらきから見た心の世界 [第2版] (コンパクト新心理学ライブラリ)、サイエンス社、ISBN : 9784781913582

オフィスアワー

その他特記事項

事前にアナウンスの上、不定期に確認テストを授業開始時に実施するので、毎授業ごとの復習を心がけて下さい

参考URL

<https://midorikawa-lab.r.chuo-u.ac.jp>

備考

この科目は対面形式です。

科目名： 家族心理学(社会・集団・家族心理学Ⅱ)**担当教員： 大野 祥子**

履修年度：2022 学期：前期

開講曜日時限：木5

配当年次：2年次配当

科目ナンバー：

登録者：admin

登録日時：2021-10-07 05:21:16 更新者：XEC218

更新日時：2021-12-28 18:38:13

履修条件・関連科目等

【この科目は2021年度以降入学生が履修可能です。2020年度以前入学生は履修できません。】

授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

この科目では家族心理学の基本的な理論と概念を学び、現代の家族の問題を実証的・分析的に考えます。家族という人間の営み・家族関係にまつわる心理は社会文化的に規定されるものです。現代家族の人間関係の中で人が何を感じながら生活し、発達していくのかを概観して、人間にとって家族とはどのような意味を持つのかを考えます。

科目目的

家族心理学の理論・概念について実証的・分析的に学ぶことを通して、家族という集団のもつ性質を理解するとともに、家族にまつわる出来事や心理と時代的・社会的な文脈の関連を理解し、現代社会における人間の生き方について考えたいと思います。また、自分自身の体験や将来展望と照らし合わせることで、自らの家族体験を社会的な視野をもって相対化することを目指します。

到達目標

(1) 家族という営みに現れる家族メンバーの心理・対人関係を多角的に理解し、学術的な用語を使って記述・説明できること。(2) 現代の家族をとりまく社会・文化的状況を理解し、家族が抱える問題を背景の社会的文脈と関連づけて説明できること。(3) 家族の多様性を理解し、人間の発達にとっての家族の意味・機能について自分の体験にとらわれずに考えることができること。

授業計画と内容

- 第1回 家族とは何か
- 第2回 現代の家族
- 第3回 家族の多様化
- 第4回 親役割とジェンダー
- 第5回 育児ストレスはなぜ生じるか
- 第6回 家族役割分担とカップル関係
- 第7回 ワーク・ライフ・バランス
- 第8回 家族ライフサイクル
- 第9回 現代の親子関係
- 第10回 親子関係と家族システム
- 第11回 家族をシステムとして見る(1)技法
- 第12回 家族をシステムとして見る(2)概念
- 第13回 家族コミュニケーション
- 第14回 ふたたび、家族とは何か

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

事前に準備する課題がある場合は授業内で指示します。

それ以外は授業後の復習が中心になります。

授業でとりあげた用語・概念をふりかえって理解度を確認し、理解不足の場合は授業資料や授業内で紹介する参考文献にあたって調べておくこと。

授業で扱った事象・話題について、参考文献や資料で調べて発展的な学習をすること。

授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	0%	
平常点	100%	ほぼ毎回、授業後の課題を提出していただきます。内容は、理解度チェック、調べ物、データの考察、自分の考えを述べるなど、回によって異なります。(1)授業内容を理解し、学術的な用語を使って記述・説明できたか、(2)現代の家族をとりまく社会・文化的状況について理解し、家族にまつわる心理との関連を説明できたか、(3)自分の体験にとらわれず、根拠を挙げて論理的に自分の考えを述べることができたか、という観点から評価します。
その他	0%	

成績評価の方法・基準(備考)

出席が確認されずに課題だけ提出された場合は評価対象としません。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
タブレット端末
その他
実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

responやzoomの投票機能を使って、受講生の意見・反応を聞いて進めます。

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

実務経験に関連する授業内容

テキスト・参考文献等

- 【テキスト】
特に指定しません。
- 【参考文献】
柏木恵子・大野祥子・平山順子『家族心理学への招待[第2版]』ミネルヴァ書房

オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。

科目名： 学校臨床心理学(教育・学校心理学Ⅱ)／学校臨床心理学

担当教員： 富田 拓郎

履修年度： 2022 学期： 前期

開講曜日時限： 月2

配当年次： 2年次配当

科目ナンバー：

登録者： admin

登録日時： 2021-10-07 05:21:16 更新者： AA1339

更新日時： 2021-12-24 03:41:36

履修条件・関連科目等**授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

授業で使用する言語(その他の言語名)**授業の概要**

(2022年度は双方向型オンライン授業の予定です。)

学校を取り巻く状況はここ二十年ほどの間で大きくさま変わりしています。不登校の右上がりの増加をはじめ、特別支援教育の導入と推進、複雑化するいじめ問題、子ども虐待や貧困問題など子どもと家族に関わる問題は言うに及ばず、新学習指導要領の実施、いじめ対策推進法の施行と学校での対応、さらには学内外からのさまざまな評価や要求の増加等々、教師にかかる負担は日々激増し、精神疾患を発症し休職する教員も増加しています。2017年に施行された教育機会確保法でも、学校での対応にあたりスクールカウンセラーなど専門職の関与が学校に義務付けられています。本授業では科目担当者の臨床心理士(スクールカウンセラー)としての実務経験を踏まえ、学校をめぐるいくつかの臨床心理学的課題について、理論面と実践面から学びます。具体的には講義の他、映像・動画視聴等を通じて、学校臨床心理学・スクールカウンセリングの基礎知識となる知見を体験的に深めます。クリッカアプリ(respon)を使いながら、テーマに対する受講生各自の体験談や考え方・感じ方をなるべく共有しつつ、授業を実施します。

科目目的

スクールカウンセリングにおける基礎的知識を学び、子どもや若者のメンタルヘルスについての知識を習得することを目的とします。

到達目標

- 1) 学校臨床心理学の基礎知識を学ぶことができます。
- 2) 青少年のメンタルヘルスについての基礎知識と基本的な対処法を学ぶことができます。

授業計画と内容

(予定は変更することがあります)

- 第1回： 学校臨床心理学の多層的な視座(序論)
- 第2回： 学校組織と関連法規：現在の日本が抱える問題
- 第3回： 支援の3つの視座：開発的・発達の支援、予防的支援、問題解決的支援
- 第4回： 生徒指導・教育相談と学校臨床心理学
- 第5回： 学校臨床心理学と精神医学
- 第6回： 特別支援教育
- 第7回： 心理教育の方法(ストレス・マネジメント)
- 第8回： 学校臨床の問題ー不登校ー
- 第9回： 学校臨床の問題ー危機介入(いじめ、トラウマ等)ー
- 第10回： 学校臨床の問題ー非行・暴力、性、自傷ー
- 第11回： 教員のストレス、精神疾患と休職、バーンアウトと難しい保護者への対応
- 第12回： 保護者対応と外部機関・地域との連携ー困難事例から考えるー
- 第13回： メンタルヘルスに関する予防教育(予定)(ゲスト講師による講演を予定)
- 第14回： 全体のまとめ(質疑応答を含む)

授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	70% 最終レポートを評価する。最終レポートの評価方法はルーブリック評価基準を用いる。
平常点	30% 授業への取り組み度を評価する(小レポートを含む)。
その他	0%

成績評価の方法・基準(備考)

詳細は初回授業時にレジュメを配布し、説明します。

課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
その他

課題や試験のフィードバック方法(その他)

アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL(課題解決型学習)
- 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- タブレット端末
- その他
- 実施しない

授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
いいえ

【実務経験有の場合】実務経験の内容

2002～2005年度まで、東京都立学校スクールカウンセラーに従事。都内公立中学校3校のスクールカウンセラーを務めた。

実務経験に関連する授業内容

講師の実務経験をもとに、具体例を交えつつわかりやすく講義します。

テキスト・参考文献等

参考文献は授業時に適宜指示します。テキストは用いず、講義レジュメを毎回配布します。

オフィスアワー

その他特記事項

- 1) この科目は公認心理師資格取得に必要な学部科目です。同資格を取得したい人は必ず履修してください。公認心理師資格を目指さない人も通常の専門選択科目として履修することができます。(なお本学の場合、公認心理師資格は2021年度以降に文学部心理学専攻に入学した人は取得可能です。2020年度以前に入学した人、心理学専攻以外に在学・在籍する人は同資格を取得できません。)
- 2) 授業資料は原則としてmanaba上にアップロードします。各自でダウンロードしてください。
- 3) 各自manaba、responを使えるようにしておいてください。responは事前の設定をお願いします。
- 4) 欠席は履修の大きな妨げとなりますので気をつけて下さい。

参考URL

備考

この科目はオンライン形式です。
